

イカナゴ親魚 過去最少 県調査、今春も不漁の恐れ

兵庫県水産技術センター（明石市）は9日までに、今春、瀬戸内海で行われるイカナゴのシンコ（稚魚）漁に向けた親魚の産卵調査結果を公表した。親魚の数は1986年の調査開始以来最少で、推定総産卵量は平年の1割弱。同センターは「卵の数は稚魚の数に影響し、厳しい漁になる恐れがある」とする。

昨年12月3日～今年1月4日、イカナゴが産卵する播磨灘北東部で調査。親魚の数は7回採集した平均が4・9尾と、前年の11・4尾、過去最少だった前々年の10・5尾を下回った。ただ、産卵数の多い生後2年以上の割合が高く、推定総産卵量は前年と同水準を保ち、平年の9・4%だった。同センターは今後、1月下旬に播磨灘や大阪湾などで稚魚の状況も調査。分析した上で2月中旬に、今年の漁況予報を出す。その後、兵庫、大阪両府県の漁業者らが試験操業し、今年の解禁日などを決める。

解禁日は例年2月末～3月上旬。2017、18年は極端な不漁で、例年1カ月余りある漁期を12～27日間に短縮した。

（山路 進）

©神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前【】

① 兵庫県水産技術センターはどこにありますか。

市

② 同センターが、今春のイカナゴのシンコ漁は「厳しい漁になる恐れがある」としたのはなぜですか。

③ この調査はいつ、どこで行われましたか。

いつ

どこで

④ 例年のイカナゴのシンコ漁解禁日はいつごろですか。